

INSTYLE GROUP

お問合せの件につきまして

まず、女性への暴力を肯定する企業ではないです。

ですが、前提条件はどうあれ、記事に書かれた事に事実と違う事が多いとチャヌがどう言おうとも、女性に手をあげた時点で問題ではあり、その問題については彼は法に則り、処罰され、それを受け入れました。

そしてその件について改めてチャヌからの説明を聞き、記事に書いてある事の全てが真実ではない、事実と違うことの記載も多い、と言うことを信用して今に至ります。

また、今回改めて話を聞いた結果、同じ結論に達し、彼を信用して起用しています。

僕は傷一つなく生きている人間は居ないと思っているので、過去に償いをした罪を、ことさらに言い立てて、未来を全て奪うことが正しいとは思えないので、この行動をとっています。

しかし同時に、記事には事実も、もちろん含まれているでしょう。

ですから、反省しているとはいえ、彼を許せない人が居てもそれは仕方ないと思います。

当事者、関係者(家族、友人含む)の方々に、彼を許せない気持ちがあるのは理解できますし、当然だと思いません。

また、当然彼のクリエイションを受け入れることは出来ないでしょうから、彼のデザインした服を着て欲しいとも買って欲しいとも思いません。

彼を許して欲しいとも思いません。

ですが、繰り返しになりますが、現状彼は法に則って裁かれ、おそらく(まだそんなに彼と親しくないし、やり取りも多くはしていないため、100%の確度を持って言える事ではないのが申し訳ないですが)反省をし、日々を過ごしています。

一度裁かれたものを裁き直すことは出来ませんし、関係者には不満もあるところでしょうが、それを言うなら彼にも同じ、言い分や主張があります。しかし、残念ながら覆らない事ではあります。

記事についての僕の考えは以上です。

今後の彼が積み重ねていく行動により、信用が積み重なっていくのか、不信感が募るのか、が決まると思いません。

疑問、質問は「女性への暴力を容認する企業であるか？」でした。

答えはNOです。

僕が彼から聞いた話は、記事に書いてあったことと違い、その話を信じたため、彼を起用しています。

もし、今後女性に対して彼から聞いた形とは違う形で、「暴力を振るった」証拠等が新たに出てきた場合、僕は彼を信用して起用した事を謝罪しますが、彼は僕の信用に応えてくれると思っています。

2021年3月2日

INSTYLE GROUP

代表 西村 豪庸